

# もっと識字・基礎教育の学習機会を！

## ～大阪市の夜間中学廃校計画に反対する緊急アピール～

2021年12月10日

識字・日本語連絡会

### 【大阪市による夜間中学2校廃校計画に反対する】

大阪府が天王寺中学校夜間学級と文の里中学校夜間学級という公立夜間中学二つを廃校にして、日東小学校跡地に不登校特例校（夜間学級併設）を創設しようとしています。わたしたちは、この計画に反対です。大阪府内における識字・基礎教育の学習機会はまだまだ足りません。1校創設してもこの2校を廃校にすれば、大阪における識字・基礎教育の学習機会はさらに減ってしまいます。近畿夜間中学校生徒会連合会は反対の声を上げています。現在通っている学習者は、いまの場所に学校があるからかろうじて通えているのです。廃校計画は、教育権を奪うものです。

### 【大阪市の廃校計画は「教育機会確保法」と全国的な夜中増設の動向に反する】

2016年に「教育機会確保法」が制定されて、全国各地に公立夜間中学が建設されています。大阪で夜間中学を廃校にするという案は、全国的な動向に反するものであり、全国各地で夜間中学増設に取り組んでいる人たちの希望を奪う政策に他なりません。大阪府内には、現在11校の夜間中学があります。大阪は、全国的に見れば、夜間中学校の数が多い地域です。しかし、地域的には空白地帯があります。空白地帯とは、南河内と三島です。天王寺中学校夜間学級と文の里中学校夜間学級は、このうち南河内に住む学習者がかろうじて通える範囲にあります。もしもこの2校が廃校とされたら、いまでも学習機会に乏しい南河内の学習希望者はいっそう学びにくくなります。

### 【夜間中学の増設こそ必要】

わたしたちが提案するのは、現在の夜間中学を維持しつつ、三島地区、南河内地区に公立夜間中学を建設することです。たとえば、近鉄の河内松原駅近くか、同じく近鉄の高鷲駅近くに1校建設することです。また、三島地区では、阪急の茨木市駅とJRの茨木駅の間にも1校建設することです。これによって、地域的な偏りは、いくらかは改善されることになるでしょう。大阪府と大阪府が連携すれば、このことは可能だと思います。

### 【不登校特例校1校設置では「焼け石に水」】

大阪府が日東小学校跡地に創設しようとしている不登校特例校（夜間学級併設）とは、現在不登校状態にある学齢期の子どもたちが通える学校をさします。日本政府の統計によると、大阪市の不登校児童生徒輩出率は全国の1.5倍です。不登校特例校を建設する前に、なぜ大阪市内で

不登校児童生徒がこんなに多いのかを考えるべきです。大阪市の子どもたちは生活の貧困化と学校の競争強化によって追い込まれています。大阪府が教育政策を転換し、貧困な状況にある子どもたちを支援するとともに、すべての子どもたちが安心してできる学校教育を進めることこそ、不登校問題解決の本筋だと考えます。それを抜きに特例校を建設しても、「焼け石に水」です。

しかも、日東小学校は通学には不便です。複数の鉄道が相互乗り入れしている都心の難波駅から1キロメートル、最寄りの大阪メトロ堺筋線恵美須町駅から650メートルあります。市内の不登校生徒や夜間中学生がどれほど通えるでしょう。それに対して、現在の天王寺中学校や文の里中学校は、複数の鉄道が相互乗り入れしている天王寺駅や、近鉄の河堀口駅といった最寄りの駅から500メートル以内にありま

### 【不登校問題には根本的な政策転換が必要】

大阪府内には14,325人の不登校児童生徒がいます(2020年)。しかもこの人数は2019年からの1年間で14.8%増加しており、この増加率は全国(8.2%)よりもかなり高いのが実情です。子どもたちは大阪の教育政策に悲鳴を上げているのです。なぜ大阪府で不登校児童生徒がこんなに増加しているのかを考えるべきです。

不登校児童生徒の多く(9,272人)は中学生です。その3分の1、毎年約3,000人が形式的に中学を卒業しているとすれば、単純計算しても10年後には約3万人の若者たちが十分な義務教育を受けないまま社会に巣立っていくこととなります。現在の不登校児童生徒増加率を考慮すれば、この数字がもっと大きくなってもし思議ではありません。どうか、子どもたちの声を聴き、子どもたちの立場にたった教育政策を進めてください。

### 【識字・日本語教室の拡充とあわせて】

念のため述べれば、夜間中学を建設すれば、それだけで識字・基礎教育を求める学習者にとって安心して学べる場所が増えたことにはなりません。毎晩通う夜間中学タイプの学習機会の他、「教育機会確保法」でも言及されているように、週に1-2回程程度開かれている地域識字・日本語教室の開設もあわせて必要です。毎日昼間働いている人たちのなかには、夜間中学に毎晩通える条件のない人たちが数多くいます。現在のところ夜間中学に毎晩通学するのはむずかしいが勉強はしたいという人がたくさんいるのです。夜間中学の増設は、地域における識字・日本語教室の増設と充実によって初めて実のあるものとなるのです。

わたしたちが反対するのは以上のような理由からです。これまで、大阪市や大阪府は夜間中学建設・維持に熱心な自治体として有名でした。その評判を覆し、これからは夜間中学を廃校する側に回るのでしょうか。

わたしたちは、以上のような考えにたち、大阪市の夜間中学廃止計画に反対するものです。多くの方たちの賛同と協力を呼びかけます。